

1 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">サステナビリティ推進の取り組みの一環として、ステークホルダーへの適切な情報開示と、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を把握することにより、温室効果ガス削減の取組み促進を目的としている。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">サステナビリティデータブックやアンケート等に算定結果を公表する。排出量の削減効果の確認や削減施策の検討に活用する。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">サプライチェーン全体での各カテゴリー別の把握によって、協力会社からの排出量の比重が高いことが再確認できた。 (温室効果ガス排出量全体におけるScope3のカテゴリー1の比率が89%以上)。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">サステナビリティ推進部でデータを集約し、算出した。

2 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none">輸送を中心とした協力会社への業務委託が温室効果ガス排出量の87%を占め、協力会社との温室効果ガス排出量削減へ向けた協力が重要である。どのように具体的に協力会社と体制を築いていくか検討していく。
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none">Scope3は購入金額ベースで算定しているものが多く、排出量削減の取り組みが反映できないため、利用運送業者等から個別に排出量データを収集できる体制を構築することが課題。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none">2021年度のCO2排出量データのうち、組織単体および国内グループ141社のScope1,2（エネルギー起源の二酸化炭素を対象）およびScope3(カテゴリー1のみ) について、ISO14064-3：2006に基づく第三者検証を受けている。

3 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2021年1月～2021年12月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	・ 原材料・資材調達金額、協力会社支払金額	・ 購入金額当たりの原単位（※1）
カテゴリ2「資本財」	・ 設備実施金額	・ 資本財価格当たりの原単位（※1）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	・ 電気・燃料使用量	・ 電気使用量当たりの原単位（※1） ・ 燃料種別原単位（※2）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	・ 荷造材料費購入額から推計	・ 輸送トンキロ当たりの原単位（※2）
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	・ 廃棄物種類別排出量	・ 廃棄物種類別原単位（※1）
カテゴリ6「出張」	・ 出張旅費支給額	・ 交通手段別原単位（※1）
カテゴリ7「雇用者の通勤」	・ 通勤費支給額	・ 交通手段別原単位（※1）
カテゴリ8「リース資産（上流）」	・ Scope1,2と重複のため、除外	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	・ 該当活動なし	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	・ 該当活動なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	・ 該当活動なし	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	・ カテゴリ5を含む	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	・ 該当活動なし	
カテゴリ14「フランチャイズ」	・ 該当活動なし	
カテゴリ15「投資」	・ 投資先のScope1,2公表値	・ 株式保有割合
「その他」	・ オプションカテゴリのため除外	

（※1）サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベースver3.1

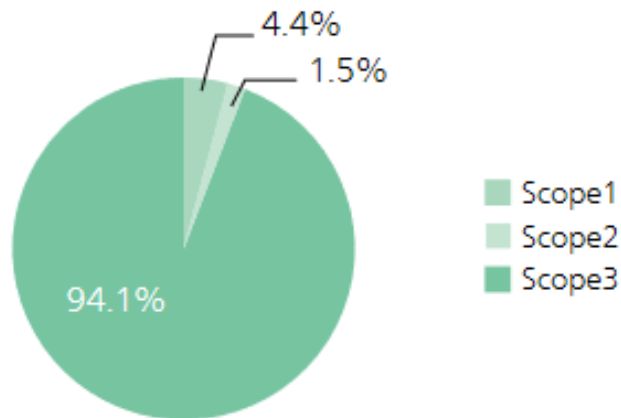
（※2）LCIデータベースIDEA v 2（サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用）

4 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)

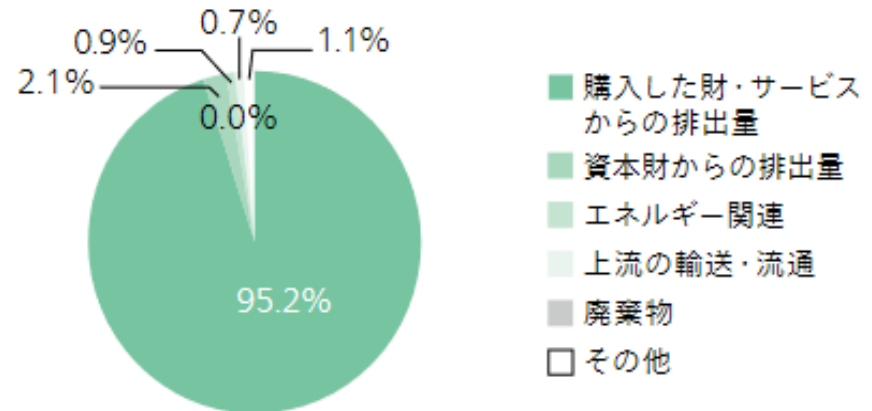
サプライチェーン排出量算定結果

● サプライチェーン排出量 (2021年)

■ サプライチェーン全体での
温室効果ガス排出量
(2021年：NXグループ)



■ Scope3の構成比
(2021年：NXグループ)



(備考) Scope1,2,3はNXグループ計の数値